



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 69 号

2009.10.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつかっています。

も く じ

お知らせ

- ー 第 8 回全国草原サミット・シンポジウムが開催
- ー 『苅尾 17 号』を発行
- ー 「はらっぱーと草原のなかまたち」を発行

活動報告

- ー 霧ヶ谷の観察会 秋のいきもの観察会
- ー 霧ヶ谷湿原の植生モニタリング 秋

観察会案内

- ー サツキマスの観察会
- ー キノコ観察会

お し ら せ

● 第 8 回全国草原サミット・シンポジウムが開催されました

2009 年 9 月 26 日（土）～ 28 日（月）に第 8 回全国草原サミット・シンポジウムが北広島町芸北で開催されました。3 日間に渡り、現地見学会、シンポジウム、サミットとたくさんの方に参加いただき、各地の草原の現状や保全活用策を様々な視点から探りました。最終日のサミットでは北広島町長が「北広島宣言」を読み上げて閉幕しました。ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

● 『苅尾 17 号』が発行されました

西中国山地自然史研究会会報の「苅尾」17 号が発行されました。今回は草原特集となっています。価格は一部 100 円です。高原の自然館にてお求め下さい。

● 「はらっぱーと草原のなかまたち」が発行されました

千町原の草刈りでおなじみのキッズプログラムから生まれた「はらっぱーと草原のなかまたち」が絵本になりました。芸北の草原保全キャラクター「はらっぱー」のお話です。高原の自然館にて販売しています。ぜひご覧下さい。なお本書の売り上げは、草原保全のために活用されます。

『はらっぱーとそのなかまたち』
文・絵：佐久間智子
発行：西中国山地自然史研究会
定価：500 円

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷の観察会 秋のいきもの観察会

開催日時：2009年9月12日（土）9:30

講師：岩見潤治・和田秀次

早朝から激しい雨が降る中、17名の参加者が自然館に集合しました。夏の観察会に続き、植物担当の和田先生、昆虫の岩見先生が講師です。自然館で湿原の概要についてお話頂いた後、霧ヶ谷湿原へ移動し、今年度の工事予定地で木道をつけるルートを歩きました。雨が降っているため、歩きにくい場所もありましたが、目に入ってくる植物や昆虫の説明を聞いていると、時間が経つのがとても早く感じました。ツリフネソウの蜜を吸うマルハナバチと花のつくりとの関係や、アケボノソウの蜜線が花びらにあることなど、植物と昆虫の密接な関係をユーモアを交えてのお話で、楽しみながら観察することができました。葉の裏でトンボが休んでいたりと、しずくが付いたカンボクの実を眺めたりと、雨の中ならではの発見があった観察会となりました。夏と秋の観察会で、霧ヶ谷湿原の中を歩いてみると、湿地生の植物や動物が増えていることを感じる事ができました。来年には観察路が完成する予定なので、霧ヶ谷湿原はもっと身近な場所になることと思います。帰り道に見たオオヘリカメムシの匂いは、思った以上にいい匂いで驚きました。[このやよい]



雨の中イザ出発！



キセルアザミの名前の由来「煙管」を実演しながら説明する和田先生。



最初に自然館の中で、自然再生事業についての説明があった。



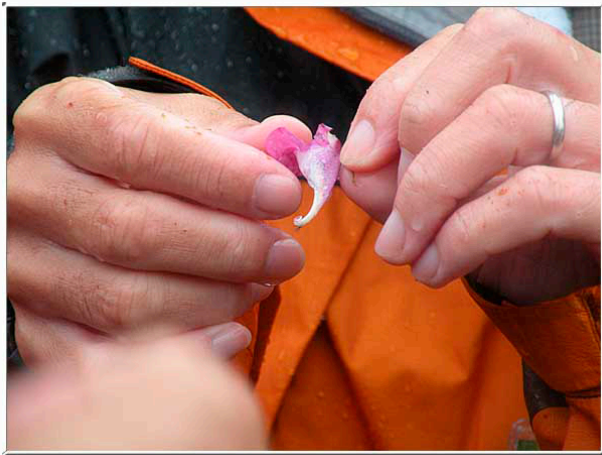
イナゴにのど仏があることを初めて知った。



強めの雨の中、活動している虫もわずかながら観察できた。



最後に、芸北で開催される草原サミットの説明があった。



ツリフネソウの花の中を観察する。雨宿りをしている虫もいた。



青リンゴのように甘酸っぱい香りがしたオオヘリカメムシ。

【みなさんの印象に残った物】

「雨です」「はじめて見た花」「アケボノソウが沢山きれいに咲いていてうれしかった」「湿原の美しい花が見れたこと」「寒かったです」「雨の中の湿原 初めて歩いたこと」「人工的に湿原を復元しようとしている事を初めて知った事」「ミゾソバが白とピンクと一緒に生えてるのが不思議」「良い香りのするカメムシ (2)」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「虫があまり見られなくて残念」「雨にもかかわらず夢中になる」「雨の中、寒かったけど楽しい一時をすごすことが出来て良かったです」「時期によって、植物が変わっていくとのことなので定期的に観察会を実施して下さい。」「色々見て勉強になりました。」「晴れた日も歩いてみたいと思いました。」「寒い中でしたが熱心に説明されている先生方が良かったです」「お天気ならよかったのに」「前回の、夏の湿原の観察とは、植物が違い季節により、変わっていく湿原を観察できたこと。だが、雨のため、動物や虫を観察できなかった。」「夏とはちがう道順で異なる姿の湿原を見られました。」

観 察 会 報 告

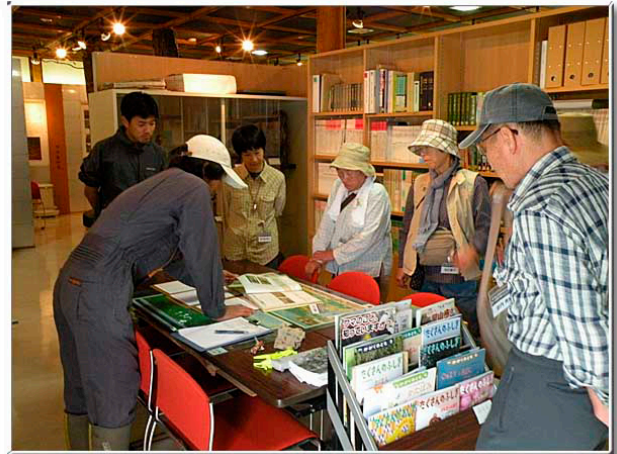
● 霧ヶ谷湿原の植生モニタリング 秋

開催日時：2009年9月13日（日）9:30

講師：小宮啓吾・白川勝信・佐久間智子

前日の観察会では「寒い寒い」という声も聞かれましたが、調査の日はお日様が覗きました。今回の調査には、初めての人3人を含む7人が集まりました。まずは高原の自然館に集合し、再生事業の経過や、西中国山地自然史研究会の関わり、これまでの調査で分かったことなどを確認しました。基礎知識を共有したところで、霧ヶ谷に出発しました。

今回は、広島県が実施する遊歩道設置工事の最中なので、全員がヘルメットを被り、3班に別れて調査地に向かいます。1m×1mの中に、どんな植物がどのくらい生育しているのか、見落としの無いように植生を調査していきました。遊歩道沿いに点々と設置された調査地には、夏の調査の際にダンポールを立てているので、簡単に見つかります。1区画の調査が終わった班は前に進み、次の調査地を調べる、という風に、追い越し・追い越されながら進んでいきました。調査地の中には、湿原生の植物が多いところもあれば、外来種ばかりのところ、種数が極端に少ないところなど、場所によって環境も植生も違うことが実感できました。お昼頃には調査を終え、調査結果の概要を報告しあいました。やはり、場所によって種組成に大きく違いがあり、外来種もたくさん見られるようでした。今後、アメリカセンダングサをはじめとする水田雑草が繁茂する場所ができるかもしれません。モニタリングを続けることが大事だと感じました。ともあれ、調査地を歩く間には、アケボノソウの群生や、たくさんのオオコオイムシも見ることができました。少しずつではありますが、ノイバラの藪だった場所が、湿原の性質を取り戻していると実感できました。[しらかわかつのぶ]



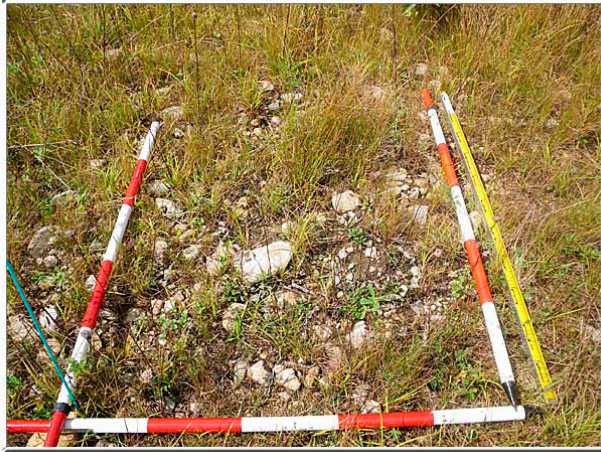
はじめに、高原の自然館で調査方法やこれまでの経緯を確認。



再生が進む霧ヶ谷。



ヘルメットを被って、いざ出発。



河川敷のような場所。湿地の植物は少ないが、種数は多い。



この日は中国新聞からも取材に来ていただきました。



湿原が回復している場所。マアザミ、アブラガヤなどが生育していた。



最後に、全員で調査結果を確認。



1 班の調査風景。

【みなさんの印象に残った物】

「アブラガヤ、マアザミが多く咲いていた場所があった。」「アケボノソウ」「湿地化したら多くの花が咲き出した」「同じように見えてもそれぞれの種がまじっている」「始めて見る物に感動した」「思ったより沢山の種類があるのにびっくりした。」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「湿った場所がだんだん増えていくのが楽しいですね」「種類の多い所, 少ないところがあり, 環境によって違いが出ていました。」「気をつけて見ると自然の多様性を知ることが出来た」「植物のたくましい事」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● サツキマスの観察会

開催日時：2009年10月10日(土) 9:30

集合場所：八幡高原センター

講師：内藤順一

準備：基本セット、双眼鏡

定員数：30名

参加費：一般 =300円

賛助会員 =100円

正会員・中学生以下 = 無料

サツキマスの生態を資料や映像で学んだ後、産卵のため遡上してきている姿を観察しに川に行きます。産卵床の様子や群泳も見ることができるとは限りません。10月とはいえ、八幡は冷え込みます。暖かい服装でお越しください。

● キノコ観察会

開催日時：2009年10月24日(土) 9:30

集合場所：二川キャンプ場

講師：川上嘉章

準備：基本セット、キノコを入れるかご（ビニールの袋よりも、通気性の良いかごが良い）

定員数：30名

参加費：一般 =300円

賛助会員 =100円

正会員・中学生以下 = 無料

二川キャンプ場付近にてキノコの観察会を行います。キノコを見つけても、名前や生態などを調べるのは大変難しいです。今回は専門家の先生のお話を聞くことができるチャンスです。午前中で終了予定です。

● 2009年度のイベント計画について

2009年度のイベント計画をお知らせします。なお、日程は変更になる場合がありますので、毎回の苅尾電波塔にご注意ください。

2009年

11月7日 ゴギの産卵観察会

紅葉と冬芽の観察会

15日 八幡高原の野鳥の観察会

12月 未定 かんじき作り

2010年

1月 16日 冬を生きる動物たちの生態

2月 21日 雪原のトレッキング

3月 6日 早春のトレッキング



心待ちにしていた全国草原サミット・シンポジウムが開催されました。たくさんの方においでいただき、草原のありがた、またこれからについてをともに考えることができました。「北広島町っていいところだねー」という声もたくさんいただきました。このサミットやシンポジウムで学んだことを、日々の生活や自然館の活動に活かせることができるといいなと思います。また草原が暮らしの中にあることって、幸せなことなんだなあと改めて感じました。(この)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館 (こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info